

民進は共産の二軍になった

西鉄グランドホテル(福岡市中央区)で20日に開かれた九州「正論」懇話会。元防衛副大臣の長島昭久衆院議員は、国防に関し「米国に頼り切った外交や、安全保障では通用しない」と語った。講演の主な内容は以下の通り。

(2面に関連記事)

九州「正論」懇話会 詳報

民進党を離れ、政治家として独立しました。党籍も失った自由な立場で、私なりの正論をぶつきたい。

なぜ離党せざるを得なかったか。(民進党は)共産党との共闘路線がますます深まり、方向転換は難しい。このまま次の衆院選に進んでいくしかない。

簡単に言えば、共産党の二軍になってしまった。自民党の二軍なら、一軍がこけたら上がる。だが共産党の二軍は、何をやっても政権にはたどり着かない。政策的主体性を失い、二度と政権に返り咲くことはない」と判断しました。

「外交安全保障をやりたいたい」。私が政治家を志した原点です。

もう一度、自民党と競争できる野党勢力、ど真ん中の世論に働きかけられる改革志向の保守勢力を作り上げたい。その捨て石になるつもりで、独立しました。

東京都議選で、小池(百合子)知事の勢力が圧勝した。ただ、(政権交代があった)平成21年と比べると、思いのほか熱がない。結局、消去法なんです。自民党に入れることはできない。民進党は頼りにならない。いわんや共産党。残るのは都民ファーストの会しかない。

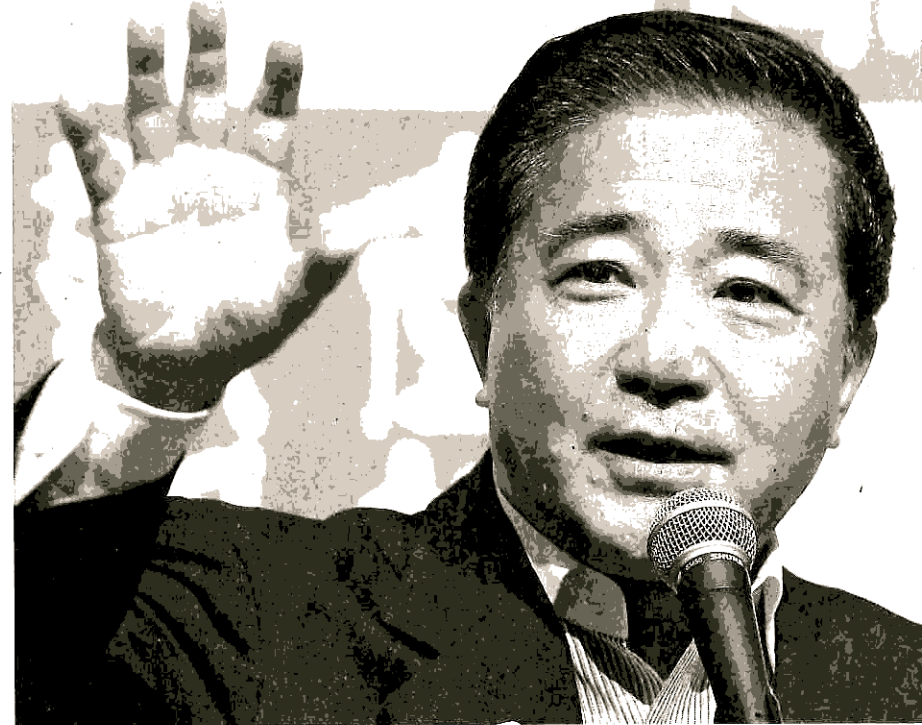
小池知事が東京大改革の成果が出せれば、国政において大きな台風の目になるかもしれない。

私は、小池新党の国政進出の中心にいると思われているでしょうが、そんなことはありません。

小池さん頼みで5人集めて政党をつくる。そんなことをすれば大ブライニングです。政党交付金がもらえる年末に政党を作ったんだろうと見透かされますよ。

政策理念の旗を立て、「こいつらだっただらやってくれ

元防衛副大臣 長島昭久氏



講演する長島昭久氏 (仲道裕司撮影)

る」というメンバーがそろわなかったら、支持は集まらない。

安倍政権が非常に厳しい状況です。つまりすいたら受け皿が必要。しかし、野党には何も無い。

私が作っていいこうと思ってる保守的な改革政党は、テーマを政権に突きつけて、これを呑むなら連立だ。呑めないなら戦う。こういう形に持っていくには議論がかみ合う。

元米国務長官のキッシンジャー氏は「戦後の国際秩序は、再編期に入った。10年20

年、混んとした状況になる」といっています。

米国が国際秩序を守る意志を希薄化させ、中国、ロシアが伸びてきた。この力の信奉者の3国が、おそろく世界の秩序を仕切っていく。日本が信頼できるのは米国だけです。

といっても、米国に頼り切った外交や、安全保障では通用しない。

日米同盟は今まで、日本はこれからは場合によっては盾も矛も、日米で分担しないといけない。

主体的な政策、独力で対処できる力、独自で外交を展開する情報力、交渉力を急速に身につけないといけない。安全保障政策、国防政策を、与党も野党もなく、作りあげる必要がある。そのために、力を振るっていききたい。

米国頼みの外交では通用しない

九州・山口総合

「軍事面、盾も矛も日米分担を」

長島昭久氏が講演

九州「正論」懇話会の第131回講演会が20日、福岡市中央区の西鉄グラウンドホテルで開かれ、元防衛副大臣の長島昭久衆院議員（無所属）が「激変する国際情勢と日本の安全保障」と題して講演した。写真（仲道裕司撮影）。

長島氏は米国の安全保障について「国際秩序を守り続ける意思を示さなくなつた」と述べた上で「中国が台頭し、ロシアも軍事力を平然と使う。今後は米中露が世界の秩序を仕切るだろう」と予測した。また、日本の軍事分野の米国依存体質に触れ「今後は『盾』も『矛』も日米で分担すべきだ。日本は、そのための情報・交渉力を急速に身に付けなければなら

九州「正論」懇話会

ない」と強調した。

除籍された民進党の動向については「共産党の2軍になってしまった。私が自民党と競争できる改革志向の保守勢力を国会に作っていきたい」と意気込んだ。

